

静かなる時限爆弾

参加費
無料

アスベスト被害を考える市民集会

「魔法の鉱物」アスベスト

アスベスト（石綿）は耐熱性、電気絶縁性、保温性に優れ「魔法の鉱物」と言われ、建物の耐火皮覆としての吹き付け石綿、天床材などの建材のほか、水道管や自動車のブレーキ、魚焼きの網やトースターなどに広く使われていました。

「静かなる時限爆弾」

2005年のクボタショックを契機に、アスベスト被害は社会問題化し、2006年にはアスベストの使用は全面禁止となりました。しかし、アスベストは肺ガン、中皮腫など深刻な健康被害をもたらす有害物質であり、わずかな量の暴露でも発症する危険性があり、吸引から20年から50年もの長い潜伏期間を経て発症します。アスベストじん肺は、「静かなる時限爆弾」なのです。

有害物質アスベストを製造・輸入・販売した国と企業の責任

海外では早くからアスベストの有害性が認識され、アスベストの消費量を減らしていきました。ところが日本においては、世界の状況に反して、逆にその消費量を高めていきました。それは、企業が「アスベスト含有建材は『施工が容易』で『安価』である」「石綿は十分な管理使用をすれば安全」と言い続けた結果であり、国にもそれを許した責任があります。

立ち上がるアスベスト被害者

2006年に大阪泉南地区のアスベスト患者が国を被告として、2008年には東京、千葉、神奈川、埼玉の建設関連の被災者が国と企業（建材メーカー）を被告として訴訟を提起しました。2011年4月には北海道で、6月には京都でも提訴しました。今後、大阪、福岡などでも建設関連の被災者の提訴が予定されています。

アスベスト被害の実態を学び、被害者の救済と、アスベスト被害の根絶をめざして、市民集会を開催します。

日時

2011年7月27日(水曜日)

開場/午後5時30分 開演/午後6時

場所

札幌市教育文化会館 4階講堂

札幌市中央区北1条西13丁目

プログラム

- 建設現場におけるアスベスト飛散の状況(DVD)
- 原告のインタビュー(被害の実態)
- 講演「アスベスト問題の経過と現状」
古谷杉郎氏
(全国安全衛生センター連絡会議事務局長)



主催 北海道建設アスベスト訴訟原告団・弁護団 お問合せ先 011-522-8716

後援 NPO法人北海道勤労者安全衛生センター/働く人びとのいのちと健康をまもる北海道センター/北海道医療生活協同組合/北海道民主医療機関連合会